

点字で読み書き

2

広瀬浩一郎
(ひろせこうじろう)

民族文化研究部

読み(凸面)、書き(凹面)は左右対称

点字はアルファベットや数字も書くときは右から左へ、読むときは左から右へ。

●アルファベット(読むとき)

a	b	c	d	e	f	g	h	i
●○	●○○	●●	●●●	●○	●●●	●●●	●○	○●
○○	○●○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
j	k	l	m	n	o	p	q	r
○●	●○○	●○○	●●●	●○○	●●●	●●●	●●●	●○○
●●	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○
○○○	●●○	●●○	●●○	●●○	●●○	●●○	●●○	●●○
s	t	u	v	w	x	y	z	
○●	●○○	●○○	●○○	●●●	●○○	●●●	●○○	
●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	●○○	

●数字(読むとき)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
●○	●○○	●●	●●●	●○○	●●●	●●●	●○○	●●	●●
○○	●●○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○

●表記例

読み(凸面)→

ひ	ろ	せ	こ	う	じ	る	う
●○	●●○	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●

← 書くとき(凹面)

一	ロ	ジ	一	コ	セ	ロ	ヒ
●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●

17年5月

数符	1	7	ネ	ン	数符	5	ガ	ツ
●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●

点字はbraille*

テ	ン	ジ	ワ	
●●	●●	●●●	●●●	
●●	●●	●●●	●●●	
●●	●●	●●●	●●●	

外国語引用符	b	r	a	i	l	l	e	外国語引用符
●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	
●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	
●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	

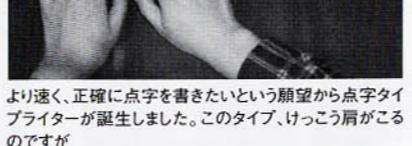
*考案者ルイ・ブライユの名に由来して、点字は英語でbrailleといいます。

米国に留学していたころ「日本の点字はアメリカよりも小さいし、用紙だってB5サイズだ。アメリカの点字本は持ち運びに不便だろう」と友人に質問した。彼いわく「アメリカ人は身体などすべてが大きいから点字もビッグなさ」。小さい点字でスペース節約というのは、やはり日本人的な発想なのだろうか。点の大きさや用紙サイズに違いはあるものの、点字が六点(縦三点で横二列)により構成されているのは世界共通である。六点の組み合わせは、二の六乗で六四種類しかない。だから数字やアルファベットを表現するためには、数符、外字符などの記号を前置する。1・4・5の点の組み合わせは日本語ながら「る」であるが、「四」とも「d」ともなりうる。少ない点で多くの文字や符号を区別することができるのが、点字の単純にして複雑なおもしろさなのだ。

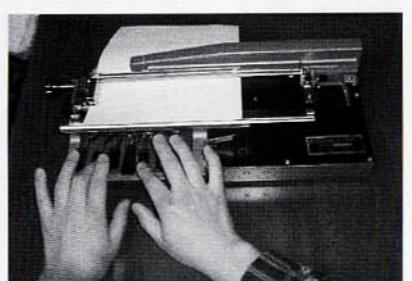
僕はいくつかの大学や市民サークルで点字を教えた経験をもつが、点字学習の第一歩は自分の名前を書いてみるとことだらう。漢字、カタカナ、ひらがなを柔軟かつ適当に使い分けているわれわれ日本人は、点字という「もうひとつ手段」で書き表された自分が名前なのか!?」これから単純にして複雑な異文化体験がスタートする。

僕は点字を書くためには点字器が必要だ。点字タイピター、パソコンを使って点字を書くことも可能だが、点字学習、異文化体験の基礎は、点をひとつずつぽつぽつと打つことであろう。点字器も多種多様だが、基本は定規と点筆のセットである。定規を開いて紙を間に挟み、点筆を紙に対し垂直に当てて、右から左へひとマスずつ書き進める。なお点字器の入手を希望される際は最寄りの点字図書館、福祉センターなどにお問い合わせいただきたい。

点字は現代仮名遣いに準じて表記する。ただし、助詞の「は」「へ」は発音どおりに「わ」「え」と書き、「う」列「お」列の長音(普通文字では「う」と表記する伸びる音)には長音符を用いる。つまり「ぼくわひろせこーじろーです」となる。凹面と凸



一点一点、ひとマスずつ点字器で書き進める点字は、なんだか「人生」のようです



漢字もなく符号類にも限りがある点字。ケータイの絵文字も楽しいが、あえて今シンプルな点字を使って、「中身」で勝負できる文章を書いてみたい。

六点の組み合わせから紡ぎ出される「点字力」を求めて、ぜひみなさんにもちよと変わった「委」文化体験を味わってほしい。

面、長音符……。この辺で点字が容「易」なものでないことに気づき、異文化を学ぶ気持ちが「萎」縮してしまう晴眼者も多い。でも、異文化コミュニケーションは「易」でも「萎」でもなく、まずは相手自身を「委」ねることから始まる。「よくわからん」「変なルール」など呟きながら、点字の単純にして複雑な世界に身を委ねてみよう。

漢字もなく符号類にも限りがある点字。ケータイの絵文字も楽しいが、あえて今シンプルな点字を使って、「中身」で勝負できる文章を書いてみたい。

より早く、正確に点字を書きたいという願望から点字タイピターが誕生しました。このタイプ、けっこう肩がこるのですが



点字電子手帳。挿入、削除、コピーが自由にでき、しかも紙に書く点字と違いかさばらない。画期的な発明ですが、「人生」の重みはなくなったかも?